

乗雲



般若経転読

寺報
第129号
R7/5/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL 0254-43-2419
FAX 0254-43-4560
編集人 広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

大般若祈祷法要

毎年六月十日は恒例の「大般若会」を修行いたします。大般若法要にはご本尊として十六善神様の掛け軸をお祀りします。この善神様は玄奘三蔵が天竺より持ち帰った大般若経を守護する護法神のことです。図の中央には釈迦如来、右下に普賢菩薩、左下に文殊菩薩が描かれており、この三体を釈迦三尊と呼びます。また、右下の隅には經典を背負った玄奘三蔵（大般若経をインドから中国に持ち帰り、漢文に翻訳された）、左下隅には深沙大王（玄奘

三蔵法師が經典を中国に持ち帰るのを助けた）がおり、そして、左右に八人ずつの十六善神（大般若経を守護し、仏法に帰依する者たちを護つてくださる）他法涌、常啼の

二菩薩が描かれている。なお、当寺所有の掛け軸は「昭和十九年一月柴橋渡邊喜八寄進 十七世徳仙代」と箱書きがあります。

法要では随喜の僧侶が祈祷太鼓を打ちながら般若心経を誦誦し、玄奘三蔵が持ち帰った大般若経六百巻を大音声で経題と真言を読み上げ、經典を一卷ごとパラパラとめくり終わると「降伏一切大魔災障成就」（すべての災難や諸悪を取り除き、願いをかなえて欲しい）と声を上げて祈り、次の經典も同じように繰り返します。導師は六百巻の第五百七十八巻「理趣分経」を一心に誦誦いたします。大般若経転読の功德力によって、世界平和、国家安泰、檀信徒の皆様のご健康と家内安全、心身堅固にして安穏な日送りができますようにと祈願いたします。

お参りの際には思いや願いを込めて一心に祈り、十六善神様を拝み大般若経の風にあたり、所願成就をご祈念申し上げます。そして、頂戴する祈願の「般若札」は守護札ですので、大切に各家の所定の安置場所にお納めください。

令和七年 年回忌表

「回忌」	「没年」
一周忌	令和六年
三回忌	令和五年
七回忌	令和元年
	平成三十一年
十三回忌	平成二十五年
十七回忌	平成二十一年
二十三回忌	平成十五年
二十七回忌	平成十一年
三十三回忌	平成五年
五十回忌	昭和五十一年
百回忌	大正十五年

▼令和七年度(2025)の年回忌表です。

当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出していません。年忌に当たられている各家には昨年十一月中旬に通知していますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考え、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。

□永平寺不老閣猊下白寿祝賀会



お話をされている南澤禅師様

三月二十六日、大本山永平寺第八十世貫首・南澤道人禅師様の白寿を祝う会が福井市内で開かれ、全国の曹洞宗寺院三百余名が出席し禅師様の聖体長養を祈念した。禅師様は仏遺教経の「忍の徳たること持戒苦行も及ぶこと能わざるところなり」から、「忍の徳」（苦難に耐え忍び、怒らず動揺せず）をこれからも人々と共に互いに深め合って行きたいとお話されました。白寿の会は第十七十八世宮崎奕保禅師様以来二人目。

大般若法要

期日 六月十日（火）

* 折り込み案内を御覧下さい。

□当寺役員退任・新任

西条の世話役員として長年ご尽力くださった渡辺虎雄氏が二月末を以て退任されました。後任には同町桑島敏雄氏が就任され、令和八年新年役員会にて委嘱状が渡されます。渡辺氏には長年のご労苦に感謝申し上げます。桑島氏には今後お世話になります。桑島氏には今後お世話申し上げます。

■訃報 並 槻 加茂幸夫氏逝去

三月五日寂、享年九十。長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 大川町 小野昭二氏逝去

四月一日寂、享年八十一。長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 小舟戸 高橋雅男氏逝去

四月十九日寂、享年八十八。長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆寺院葬◆

乗雲閣（位牌堂）ホールで
通夜・葬儀ができます。



乗雲閣1Fホール

▼コロナ感染症以後、葬儀の形態が変わりました。家族や近親者のみの小規模葬が一般的となり、葬儀社会館での葬儀も少人数で執行されています。当寺位牌堂ホールでの通夜、葬儀は控え室もあり、万一の場合には控え室に搬送しお寺から出棺も可能です。ご利用ください。

和尚さんの言の葉

曹洞宗新潟県第四宗務所（所長新潟市観音寺住職阿部正機師）では宗務所管内寺院によるテレホン法話を聞くことができます。和尚さんのお話をお聞きください。

新潟県曹洞宗第四宗務所
テレホン（WEB）法話

おしょう 和尚さんの言の葉



北信越管区内宗務所（長野第二、新潟第一）
管区教化センターにもテレホン法話があります。

- ◆曹洞宗長野県第二宗務所 テレホン法話「なむなむやまびこ法話」0265-73-7676
- ◆曹洞宗新潟県第一宗務所 テレホン法話「禅の散歩道」0258-34-4455
- ◆曹洞宗北信越管区教化センター テレホン法話「心の電話」026-244-4141

将来の夢

『脚下照顧からの学び』

長谷寺 安澤尚永

私は今、住職のおつとめと並行しながら民生児童委員として、子供達の悩みを聞くご意見番のような事をしています。部活動のこと、友達のこと、いじめ、家庭内での事など、悩みの数は多岐にわたりますが、中でも一番多いのは将来についての悩み事で、ユーチューバーになりたいという相談が非常に増えてきているように感じています。

ユーチューバーは初期投資の低さやジャンルの多様性が見込まれ、今多くの方が注目している職業の一つですが、度重なる迷惑行為の報道や破天荒すぎる動画内容などから、親御さん達が反対する気持ちもわかりますし、私も同意見な所があります。しかし、何かをやりたいと思う子供達の夢を阻害するのも今後の成長に悪影響を及ぼしてしまうとも考えています。禅の教えには、自分の足元を顧

みて、自己を反省せよという『脚下照顧きやつかしようこ』という言葉があります。家を建てる際、柱から立てて屋根を作ってもすぐに倒れてしまいます。しかし、縁の下の基礎を盤石にすることで、いつまでも倒れない立派な家が出来上がりります。「脚下」とは足元、「照顧」は照らし合わせてよく見ることを指しますが、私はこの足元を家の基礎と捉え、人生を生きていく中で様々な経験をし、人としての基礎を少しずつ組み上げ、どんなことにも負けない、強くくじけぬ心を養う事ができたなら、新しい事にチャレンジしてみてもどうかと子供達に教えていきます。

スマートフォンの普及等で子育ての仕方が大きく変わっていくのですが、皆様と一緒に色々な悩み事の解決に努めて参りたいと心から思っています。
*この法話は令和六年七月一日より十日まで新潟県第四宗務所テレビホン法話（和尚さんの言の葉）でのお話を掲載しました。

境内風景

- ・三月二日 彼岸前の位牌堂清掃
- ・三月六日～七日、十八日 境内墓地清掃 高橋土建
- ・三月二十四日 墓地花片付け
- ・三月二十六日 住職 大本山永平寺第八十世貫首 南澤道人猊下白寿祝賀会 於福井市内ホテル
- ・四月一日 墓地ゴミ処理 小野工務店
- ・四月～十月 草取り（週一回）シルバー人材センター
- ・通年 本堂・位牌堂清掃（週一回）シルバー人材センター



乗雲閣前の桜

仏事の知識

墓じまい

先祖が眠る代々のお墓をこれからも存続していきたいが今後に跡を継ぐ者がいない、高齢となりお墓参りができない、子どもに迷惑を掛けたくない、また、遠方に住まいたいので頻繁に来ることができない等、お墓継承に関わるいろいろな問題で墓じまいをしたいという人が増えている。お墓は寺院境内、地域集落、民間業者及び市営の霊園がある。墓じまいにはそれぞれの管理者の承諾と役所への許可申請が必要となる。その後、業者による墓解体工事、お骨取り出し、新たな永代供養墓地に納骨となる。その後の供養はお寺の場合は墓地管理者（住職）が永代に渡り務める。墓じまいの準備（親戚縁者、菩提寺への通知）や手続き、それに伴う諸費用はそれぞれの管理者に相談して決定する。

*以前の「仏事の知識」は当寺のホームページでご覧いただけます。

仏事の知識





銅板の屋根が出来、屋根の四隅には寺紋（菊水）が入りました。もうすぐ完成します。



□涅槃聖苑（永代供養墓）

□ご法事について

年末にお寺から正当各家に、新年度の回忌法要のご案内を郵送するようになってから二十年以上経ちます。それ以前は本堂に張り出ししてあるだけでした。それではお彼岸、お盆のお参りのときしか見ないことになりました。一周忌、三回忌、七回忌くらいまでは皆さん覚えておられますが、それから先の年忌法事は忘れていく方が多く見受けられ、「今年の法事をお知らせしてもらえますか」というお電話も度々いただいております。年忌の通知は法事を強制しているようで悩みましたが、今では「知らせてもらって助かっています」との檀家さんの声を聞くようになりました。通知するようになってからは本堂の張り出しはしておりません。個人情報保護のため、どなたでも閲覧できる年回表は止められました。なお、合同法事を行っているお寺もありますが、当寺ではそれぞれのお家の方で供養させていただいております。ご法事の日だけでなく命日にはお墓にお参りし故人をお偲びください。

□お寺からのお願い

▼位牌堂の各家位牌壇のローソク、お線香について お寺で用意したミニローソク、お線香をご使用ください。お線香は香炉から灰がこぼれないように真つ直ぐに立て、お参りが済みましたら点したローソクは火災予防の為必ず火を消してください。

▼墓地の自然ゴミ（枯れ枝、枯れ草、枯れたお供えのお花等）は、お寺で業者に依頼して処分しますが、それ以外のお花を包んであった紙、ビニール類、お墓掃除のたわし、雑巾、洗剤容器、欠けた茶碗等は捨てないでください。各自持ち帰って処理してください。

▼古い塔婆は、参道中程に「古塔婆入れ」がありますのでご利用ください。集落墓地の古塔婆もお持ちください。

▼お墓のお参りには、墓地の枯れ草等乾燥していますので、ローソク、お線香を点す際は火の取り扱いに十分注意してください。

*墓地美化にご協力お願いします。

□寂光塔（永代供養墓地）

一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。広厳寺ホームページにも詳細が掲載されています。



寂光塔（永代供養合同墓所）

□動物供養塔（ペット墓地）

動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外にも納骨供養できます。



動物供養塔（ペットのお墓）

